

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270500139		
法人名	社会福祉法人放泉会		
事業所名	グループホームさわらび		
所在地	大田市三瓶町池田1219		
自己評価作成日	平成21年12月1日	評価結果市町村受理日	平成22年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do">http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	島根県出雲市荻野町274-2		
訪問調査日	平成22年1月7日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

9人家族(姉妹)の意識の中「ともに生きる」という基本方針のもと、小規模生活共同体の中で利用者と職員がお互い協力し合って生活している。恵まれた環境と利用者の特技を最大限に生かし、花や野菜作り等の活動を多く取り入れ、生き生きとした「その人らしい」生活を送ってもらい、「出来ない事」に対して支援するのではなく「出来ること」を引き出せる様な支援の取り組みをしている。又、嚙下体操、タオル体操等取り入れ、居室の掃除等日常の生活動作で自然に体を動かし、筋力や機能低下予防に努めている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国立公園三瓶山の麓にある介護老人福祉施設に隣接して建てられ、四季折々の自然を感じながらの暮らしが見受けられる。木の実等の素材を利用して、利用者と一緒に作る手芸品は、地元の文化祭に出品され、日々の努力を感じさせる素晴らしい作品となっている。法人として地域福祉の核を担い、地域交流に尽力されている。職員は、「もし自分だったら」「自分達が入りたいホーム」を念頭に、“利用者の決定”を大切にした支援をしている。利用者の出来る力を引き出し、自立度を低下させない工夫により、「ともに生きる」見守りのケアが実践されている。職員は何事にもプラス思考で前向きであり、利用者は皆、笑顔で会話も多く、いきいきと生活されているのが印象的であった。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭に近い環境で馴染みの関係を築き、利用者と職員がお互いに協力し合い共に生活し、本人の尊厳・プライバシーを守り、その人らしい生活を支援する様になっている	法人の理念や方針を柱に、利用者を見守りながら「ともに生きる」を実践する日々を過ごされている。要介護状態が進まないように意識し、利用者の特技を活かした役割があり、いきいきした表情が多く見られた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園児を招いたり、運動会を見学に行ったり、同法人内の施設と共同して行事、クラブ等を開催し、地域より講師やボランティアを受け入れている	民家と離れている為に、地域との関わりが難しい環境にあるが、地域の祭り、運動会、文化祭に参加したり、クラブ活動の講師やそば打ちなどのボランティアの協力もある。法人広報誌は、地元自治会ほか関係機関など2千部を配布し、理解、協力につなげている。ヘルパー養成講座の実習の場として協力もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事やイベントに積極的に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的で開催し、事業所のサービス状況等を報告、推進委員より伺った意見は職員間で共有しサービスの向上に努めている	2カ月毎に定期的で開催している。内容によっては利用者も参加されている。利用者家族や地域の方にも参加頂き、活発な意見交換を行っている。参加者の意見から災害時マニュアルを見直し、「風水害豪雪対策マニュアル」が作成された。	会議の結果は玄関に置かれ、自由に閲覧出来るようにされていますが、利用者家族へは、確実に会議の内容が伝わるような方法を検討して頂きたい。又、交代で一般職員も参加してもらってはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大田市介護サービス事業者連絡協議会等を利用し行政と連携をとっている	市のグループホーム連絡会や勉強会にはパート職員を含め、一般職員も参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「見守る」ケアに重点を置き、玄関も夜間、外出時以外は施錠していない 玄関にはチャイムを取り付けその都度職員が確認している 外出願望のある時は散歩を実施する	日中は鍵をかけることはない。鍵をかけることの弊害は全職員が十分理解している。日中は鍵をかけずに自由に入出入りされている。利用者の思いや外出傾向、その日の気分や状態の把握に努め、常にホールや事務所に職員がいて目配りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内、市等で開催される勉強会、研修会等に積極的に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症事業所管理者研修、認知症介護実践者研修等に参加し研鑽を積んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	可能な限り事前に見学をして頂き、十分に説明をし、その上で同意を得て契約している 個人情報保護法に留意し、見学の際、実際の活動に参加して頂いたり利用者の方々とは交流して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書や事業所内に掲示し案内している 又、玄関に「目安箱」を設置している 法人にて苦情対応の第三者委員を設置している 又、保険者と県の苦情窓口を紹介している	法人家族会があり、グループホームからも多数の家族が参加され、家族間交流や意見交換がされている。季節ごとにホーム独自の「いきいき通信」も発行されており、利用者一人ひとりのコメントや写真を添えてご家族へ送付し、理解や意見を引き出す努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や個別の面接にて意見を聞き、取り入れ、反映出来る様にしている	法人としての教育・研修システムが整えられている。又、職員は各種委員会に参加し、現場の意見を伝えたり、同時に責任や自覚を育てる場ともなっている。職員も定着しており、提案や意見が言いやすい環境にある。毎月のスローガンを決め、サービスの質の向上に努めている。	職員の個人目標を掲げ、定期的に自分のケアを振り返る機会を持たれてはいかががでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、計画作成担当者は規定の研修を受講している 又、専門機関が主催する研修会にも参加し、その内容を職員間で共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大田市介護サービス事業者連絡協議会等を利用し他の事業所との交流を図っている 市内のグループホーム部会の勉強会に積極的に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず御本人、家族共来所して頂き、グループホームで生活する事に関しての意見を聞き、説明し納得の上入所して頂いている その内容は職員ミーティングにて情報を共有する 担当の介護支援専門員、主治医等から情報を得る		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に際しては家族と出来る限り話し合い、不安の軽減に努めている 担当の介護支援専門員からも情報を得る		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の時点で、家族、担当の介護支援専門員と情報交換し十分に意向を伺い、対応が出来る様に配慮している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に対し尊敬の念を持って接する様意識統一している「ともに生きる」の基本方針のもと、利用者と職員がお互い協力し合い、生活している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と密に連絡をとり、家族も介護者の一員として意識して頂く様働きかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会については制限を設けていない 又、要望により家族、職員が付き添い外出等の支援を行う	家族と自宅や親族宅で外泊される方、法人内にある宿泊施設を利用して、家族と一緒に過ごされる方もある。地元神社や季節行事には、職員と2、3人の少人数の利用者で、出掛けている。職員の同行で、家族が入所されている他施設へ面会に行った事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員「9人姉妹」の家族「一つの家」という観点のもと、支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも相談は可能であることを伝えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意向を聞き、利用者各々の生活歴や性格に対応したケアに努め、精神的、身体的にも安定した生活を送られるよう支援している	「本人の決定」を大切にしている。利用者が口にされた思いは、そのままの言葉で記録し、職員の言動を統一する事で利用者が安心される対応に努めている。十分なアセスメントから生活歴を把握し、担当職員を中心に、常に利用者寄り添い、日々の言動から、利用者の思いや意向の把握、又、新しい発見に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所に際して、本人、家族、担当者介護支援専門員、主治医より情報収集をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なモニタリングの際「出来る様になった事」を探す様、留意している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に希望や要望を尊重し、又、職員の気付きによりケアプランに取り入れる様になっている。又、利用者の状態に応じてその都度モニタリングを行い介護計画の変更をしている	職員は「利用者が出来るようになったこと」を探すように心掛けており、毎日気づきのメモを残し、プラン作成や見直しに反映している。利用者や家族の希望を取り入れ、ケア会議では夜勤職員も参加して、全職員で話し合っ介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別記録を記入し、申し送り、連絡ノート等で情報を共有し、統一したケアに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設を活用し、利用者同士の交流、職員の合同研修により介護の質の向上を図る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議により、民生委員等と意見を交換する機会をもっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に意向を聞いている 週一回嘱託医の回診がある 歯科、眼科、皮膚科、精神科の協力体制がある	通院の送迎は基本的には家族にお願いしている。入所時には利用者や家族に、かかりつけ医の希望を確認しているが、週1回、嘱託医の往診があり、希望される方が多い。その他専門医への受診は家族がされているが、嘱託医への通院は職員が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師の協力有り		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院に向けて家族を中心に担当医、看護師長、リハビリ担当、医療相談者等と連携を取り、円滑な退院が出来る様に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在該当者なしではあるが、グループホームとしての役割、現行制度を考えながらどこまで対応可能か検討事項の一つである	「自立支援」をコンセプトにしており、全職員で話し合いを重ね、ホームでの看取り支援は行わない方針である。入所時にきちんと説明がされており、やむを得ず退所された場合でも、病院への引き継ぎ、継続的な利用者、家族への支援が行われており、立派な看取り支援がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設と共に消防署より招聘し蘇生法等の講習会を行っている。又、併設施設の看護師より吸引機、酸素吸入器の使用法の指導も随時実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時に備えて地元自治会には依頼済み	消防署の協力で利用者と一緒に避難訓練を行っている。近隣住民や隣の自治会からの参加もあり、協力体制を構築している。夜勤職員が参加しての夜間想定訓練も行った。職員は定期的に通報訓練、救急法、消火器の使い方等の指導を受けている。スプリンクラーについては現在、申請中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議、勉強会にて処遇、接遇等について意見交換し職員の意識統一を図り、徹底している	個人情報の利用目的や取り扱い、家族に説明した上で、書面で同意を得ている。会議や勉強会で職員の意識を統一し、利用者一人ひとりにあった言葉かけや対応がなされている。プライバシーに配慮した入室や排泄支援についても、ケアが統一され利用者の尊厳が守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の希望を重視し、行事、外出、日々の活動も自己決定して頂いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団ケアと個別ケアを取り入れている 自己決定に基づき支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望を重視している 二ヶ月に一回の理美容院の訪問あり、髪型等本人の希望を聞いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、職員と一緒に準備をし、職員も同じテーブルで食事をし談笑しながら食している 下膳、食器洗い等日替わりで利用者に担当して頂いている	利用者が献立、調理、片付けまで自発的に参加されている。献立は法人の管理栄養士のアドバイスを受けている。職員は、利用者と一緒に食卓を囲み、弁当を食べているが、利用者と同じ食事を検食として味わうことで、話題も広がり、和やかに食事をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養、水分摂取量の少ない利用者には個別に摂取を促している 毎日の飲み物の種類にも変化をつけ飽きない様にしている 好きな飲み物を選択していただく時もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、義歯洗浄の声かけを実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツを出来るだけ使用しない様に、例えば夜間のみ使用する等、排泄パターンを把握しさりげない声かけにてトイレ誘導を行っている 本人の状態、習慣に合わせて支援している	排尿、排便チェックをしながら、トイレ誘導や排便コントロールを実施することで気持ち良い排泄支援をしている。職員が排泄パターンを把握していく事で、タイミングよくトイレ誘導ができ、リハビリパンツの使用も減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食時ヨーグルトを摂取 水分補給を行っている 毎日のプログラムの中に体操や歩行、適度な運動を取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3、4回の入浴を行っている 季節、状況に応じてシャワー浴、清拭等を実施している	前回改善を求められた入浴時間については、利用者や家族へ要望を確認したが、今の体制で良いといった意見が多く、変更はされなかった。又、開設当初から2人づつの入浴を継続されており、手をつないで仲良く入られる方もある。	利用者のその日、その時の気分で、時間や方法を変更出来る体制作りはしておきたい。一律に2人で入浴する今の体制に固執せず、入浴は利用者1対1でゆったりと話が出来るチャンスでもあり、職員にとって有意義な時間にしていきましょう。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	緊急や疲労の程度に応じ、随時休憩したり疲労の回復にも努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指示のもと、職員にて管理を行っている 処方内容服薬一覧表を作成している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割や趣味を活かした作業等の取り組みを実施している 自分の制作した作品が共有スペースに飾られることで張り合い、やり甲斐を持って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、畑作業、地域の行事等に外出している	日常的に外出の機会があり、少人数での外出を心掛けている。敷地が広く、畑もあるので、作業出来ない方も戸外に出掛けて頂いたり、隣接する法人施設や通所サービスに出掛けたり、招いて交流している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時に本人、家族の意向を聞き決定している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代読、電話の発信、取次ぎ等、本人の希望時、実施時に行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節毎の花を飾り、装飾なども季節感を出す様配慮している 採光は天窓や窓から出来、テレビ、職員の声のトーンなど状況に応じて配慮している 入浴時の脱衣場にはパーテーションを設置している 冬は掘り炬燵にて集う	和室には大きな電気掘りごたつがあり、冬場はコタツを中心にホールで過ごされる方が殆どである。中庭はウッドデッキになっていて、自由に入出入りが出来、天気の良いと、テーブルや椅子で過ごされる。ホールには利用者の写真や作品が多数飾られている。BK除菌効果水で嗽や手洗い、拭き掃除が行われており、感染予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペース(茶の間、ホール)での団らんが可能 又、中庭に共有スペースがあり、机、椅子を設置してあり自由に入出入り出来る		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には各々利用者の使い慣れた家具等が持ち込める様にしている	利用者が自宅で使っていた馴染んだ家具や大事な物を持ち込んで、自由な配置で、個性ある部屋となっている。ボランティア講師による生花クラブで活けた花が各居室やホールに飾られている。	自室で過ごされる事が少ない為、日中は暖房を切っている時間が長く、急に自室に帰られた時の、温度差が心配されます。居室のトイレ使用もあるので、ある程度の暖かさは保てるように管理をお願いしたい。又、ホールや廊下の温度計は低い位置に設置される事をお勧めします。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにて移動し易くしている		